

アカデミアでの統計解析業務はどう進めるべきか

💡 — ガラパゴス化を越えて、実務知を共有する —



本企画セッションは
2026年10月14日(水)～15日(木) 会場:東京大学・弥生講堂
とは別途, ユーザー総会 Day 0 特別企画として 2026年10月13日
(火) に別会場で開催される可能性があります。

※演題登録時に、連絡事項にAC希望と書いていただければOK

企画趣旨

AROでは、医師主導治験、臨床試験、観察研究など多様な研究に対して、生物統計家が統計解析を担っている。一方で、解析フローや実務上の工夫は各AROの中で閉じがちであり、ARO間で共有される機会は多くない。その結果、各施設で個別化が進み、いわば「ガラパゴス化」した運用になっている可能性がある。
また、AROにおける統計スタッフは限られており、実務に加えて教育や研究も担う必要があるため、解析業務の効率化、標準化、再利用性向上は重要な課題である。近年は、LLMの活用可能性も注目されている。
本セッションでは、アカデミアおよびアカデミア発研究に関わる企業の関係者が、それぞれの解析フローや課題、実務上の工夫を共有し、今後の効率化・標準化・発展可能性について議論する場を目指す。

◎ このセッションで目指すこと

📊 統計解析フローの現状共有

AROにおける統計解析フローの現状を共有し、課題を可視化する

🔧 実務的効率化手法の共有

RやSASを用いた実務的な効率化手法を共有する

🗨️ 今後の展開を議論

レポーティング、自動化、テンプレート化、LLM活用などの展開を議論

👤 こんな方におすすめ

🏫 アカデミア関係者

生物統計家、データマネージャー、研究支援担当者、ARO関係者

🔬 研究者

医師主導治験、臨床研究、観察研究に関わる研究者

🏢 企業関係者

アカデミア発研究を支援する企業の統計担当者、解析担当者

📌 主な論点

📊 統計解析フロー

医師主導治験、臨床試験、観察研究での統計解析フローの違いと共通点
解析計画から、解析実装、QC、報告までの業務フロー
施設ごとの運用差と、標準化できる部分/しにくい部分
少人数体制の中で、どこまで効率化・自動化できるか

📄 レポーティング・自動化

SASやR, Pythonによる reporting の工夫
- Quarto等NotebookやMarkdownを用いた報告書作成
- SASにおける reporting, table/listing/figure 作成
テンプレート化, 再利用可能なコード設計

🧠 LLMの活用可能性

🔗 コード補助・ドキュメント整備

コード補助
ドキュメント整備補助
QC支援

⚠️ 限界・注意点・バリデーション

LLM利用時の限界, 注意点
バリデーション, ガバナンス
教育支援

★ セッションで期待すること

1. AROにおける統計解析実務の共通課題が整理される。
2. R/SASを問わず共有可能な効率化の工夫が見える。
3. LLMを含む新しい技術の現実的な使いどころが議論できる。
4. 今後、施設横断で共有できるテンプレート、レポーティング手法、教育資材などの可能性が見えてくる。
5. アカデミアと企業の間で、今後共有可能な実務知の方向性を探る。

※演題登録時に、連絡事項にAC希望と書いていただければOK

[お問い合わせ]

info@sas-user2026.ywstat.jp